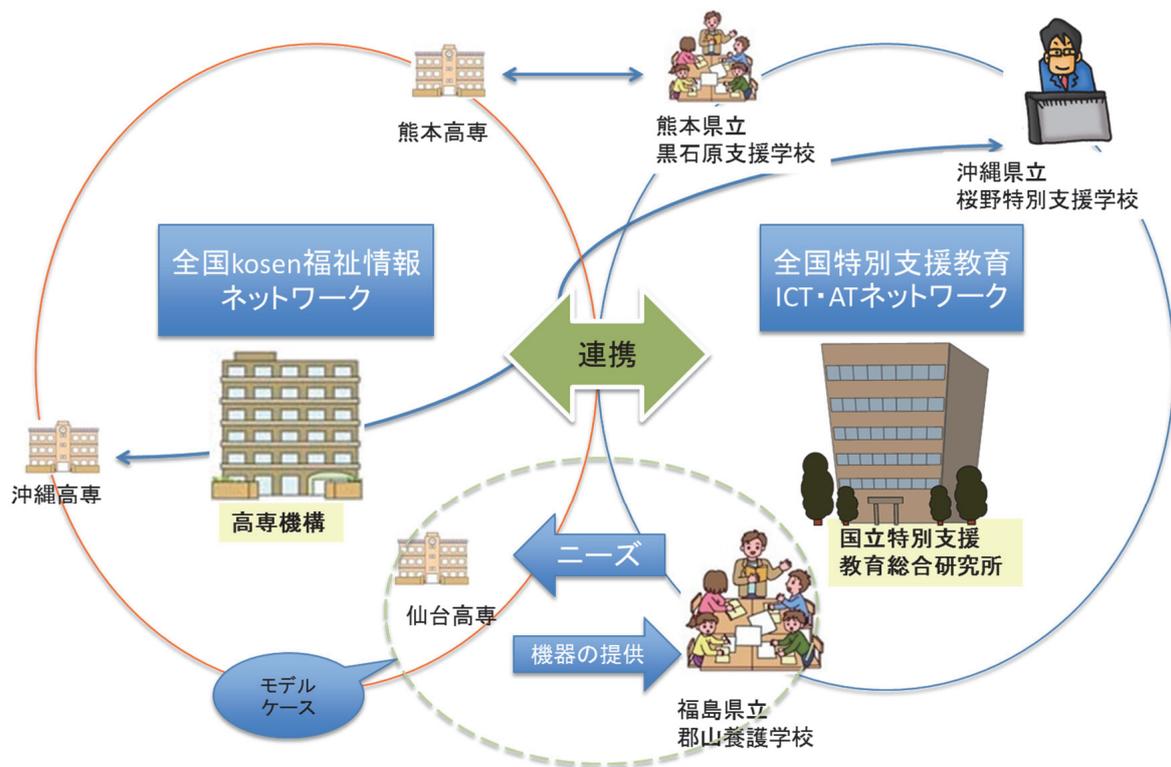


## Ⅱ 研究の方法と本報告書の構成

### 1. 研究の方法

特別支援学校等における教材・支援機器のニーズについての整理と、高等専門学校における教材・支援機器のニーズについての整理を行ない、実際のモデルケースを選定してネットワーク構築のための仕組みについて研究する。図2-1-1は研究全体の概念図である。研究全体としては、特別支援学校と高等専門学校との連携状況や連携の仕組みを整理しつつ、仙台高等専門学校と福島県立郡山養護学校でのモデルケースを通して実際的な検証を行う。



(図 2-1-1) 研究全体の概念図

### 2. 倫理的配慮

研究全体及び福島県立郡山養護学校を対象とした調査について、本研究所倫理委員会に審査を申請し、許可を得た。

### 3. 研究の経過

#### (1) 平成25年度

1月 ～3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特別支援学校と高等専門学校との連携状況の整理。・ 全国各地で開かれている ICTAT に関する研究会等の状況についての調査と、支援機器活用のネットワーク作りの基礎的な情報の収集。</li><li>・ 高等専門学校と連携し特別支援学校等における教材・支援機器のニーズと、高等専門学校における教材・支援機器のシーズを集約し、具体的にどのような機器の開発が行えるかの検討。</li></ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第1回研究協議会</li><li>・ 第2回研究協議会</li></ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第3回研究協議会</li></ul>

#### (2) 平成26年度

4月 ～3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 拠点地域（東京、仙台、熊本、沖縄）における、ネットワークのモデルケースについて検討。・ 教材・支援機器のシーズ&amp;ニーズ集の検討。</li></ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ JAPAN AT フォーラム参加</li></ul>
10月 ～3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 教材・支援機器のシーズ&amp;ニーズ集を元にモデルケース（仙台高等専門学校と福島県立郡山養護学校）を中心に、具体的な教育支援機器作成。</li></ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全国の特別支援教育 ICT 活用ネットワークを作成するための公開研究協議会を実施。</li></ul>

#### (3) 平成27年度

4月 ～3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 拠点地域（東京、仙台、熊本、沖縄）における、ネットワークのモデルケースについて検討。</li></ul>
8月 ～3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 教材・支援機器のシーズ&amp;ニーズ集を元にモデルケース（仙台高等専門学校と福島県立郡山養護学校）で具体的な教育支援機器作成の検討。</li></ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全国の特別支援教育 ICT 活用ネットワークを作成するための公開研究協議会を実施。</li></ul>

### 4. 本報告書の構成

本報告書では国等における支援機器等教材の開発状況について主なものを報告し、現在の状況を概観する。そして、特別支援学校と高等専門学校との連携状況についての整理を行った。次に、仙台高等専門学校と福島県立郡山養護学校のモデルケースの事例を紹介し、連携システムとしての Web サイトシステムと研究協議会について報告し、今後の連携についての課題を整理した。

なお、高等専門学校については「高等専門学校」「工業高等専門学校」等、学校により表記に違いがあるため本報告書では原則として「高専」とした。ただし、原典の表記を尊重するなど必要に応じて上記の表現を用いる場合もある。